

取り巻く経営環境と 中期経営計画「進化2025」

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の蔓延により、国民経済や生活が大きく制約され、不要不急の移動の自粛など社会生活は一変しました。この影響を受け、2020年度決算は、会社設立以来初めての純損失を計上するなど厳しい経営環境が続いています。

このような厳しい経営環境の中、withコロナ時代に浮き彫りとなったことは、日本の経済を支えていただいている物流のトラックなど業務交通の方々、いわゆるエッセンシャルワーカーと言われる方々を中心に高速道路を多くご利用いただいたこととあります。こうした経営環境にあっても、そうした方々をはじめ高速道路をご利用いただくすべてのお客さまの安全・安心な走行を確保していくことが当社グループの使命であり、この使命を引き続き確実に果たしてまいりたいと考えています。

また、近年、地球温暖化に伴い、豪雨災害や台風被害の激甚化・頻発化、南海トラフ地震や直下型地震などの緊急事態への対処、すなわち災害対応力が強く求められています。

一方で、先進デジタル技術の急速な進歩など、日々の技術革新には目を見張るものがあり、今後、自動運転などCASE (Connected (コネクテッド)、Autonomous (自動化)、Shared&Service (シェアリング&サービス)、Electric (電動化))の進展により、高速道路に求められる機能や役割の大きな変化にも適応していきます。

このため、今後5カ年における中期経営計画として、将来の高速道路を取り巻く環境や新たなモビリティ社会の到来を見据え、未来の進化した高速道路の姿を描きながら、将来のありたい姿として5つのビジョンを示した上で、その実現のため

の重点施策を策定し、「進化2025」と題して、当社グループが取り組むべき計画をとりまとめました。

NEXCO西日本グループの進化

私たちは、このような経営環境の大きな変化に柔軟に対応する「進化」を遂げることで、社会から求められる役割や使命を果たすとともに、高速道路の新たな付加価値を生み出していきたいと考えています。

その上で、24時間365日、高速道路の機能・サービスを間断なく提供するとともに、高速道路が繋がっていない区間(ミッシングリンク)の着実な整備や4車線化・スマートIC整備などによる機能強化に加え、リニューアルプロジェクトによる高速道路の長期保全を進めてまいります。

今後も、安全・安心を最優先に、DXの導入などにより、業務の大胆な刷新、社員一人一人が健康的で生き生きと活躍できる働き方改革の推進など、新たな時代に即した組織への変革を図り、進化した高速道路サービスを提供してまいります。

西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

前川 秀和

CSRへの社会の動きと対応

高速道路の進化に挑み続けることにより社会インフラの機能をさらに高め、我が国の持続的な発展と豊かな未来の実現に貢献することがNEXCO西日本グループの理念であり、社会的責任(CSR)であると考えています。そして私たちは、事業活動を通じて、ESG (環境・社会・ガバナンス)に関する取り組みを推進し、国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献していきます。

おわりに

あらゆる事業活動を通じてお客さまや株主の皆さまをはじめ、協力会社やお取引先、グループ社員、沿道地域の皆さまなど、様々なステークホルダーへの責任を果たすことに努めていきます。皆さまには、本レポートやNEXCO西日本グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。



進化2025における5つのビジョン

- | | | | |
|--|---|--|-------------------------------|
| 01
高速道路の
安全・安心を
いつまでも
守り抜く | 02
多発する
自然災害から
地域と暮らしを
守り抜く | 03
新しいモビリティ
社会に向けて
高速道路を
進化させる | 04
高速道路の
顧客体験価値を
高める |
|--|---|--|-------------------------------|

05 持続的に進化する企業を目指す

※中期経営計画「進化2025」はP9に掲載